

授業編は、小学部、中学部、高等部、発達障害部（通級指導教室）におけるそれぞれの指導の形態の授業について、「意欲を育む授業」の例を2ページ～4ページで紹介しています。具体的には次の通りです。

指導の形態名と学部（または全校）

### ① 全校 特別活動（全校朝会）

どの児童生徒も話し手に注目し、話の内容に応じた掛け合いができることをねらう講話

授業に参加している子供の数（学習集団）と指導者の数

実践前の子供の思い



お話だけだと印象に残らないし、周りのざわつきも気になって集中できないよ。

集会時に見られる課題にかかわる実態  
・徐々に話し手から注意が逸れていく。  
・質問を投げ掛け、相づちを返す反応が返ってこないことが

実践にかかわる子供の实態

小学部から高等部までの幅広い児童生徒が、興味をもちやすいテーマを選定すること、そしてできるだけ早い段階で注目を集める手立てを講じることです。

この授業の中心となる考え方

### 授業計画レベル

適度な学習課題の設定の工夫

- ・話し手に注目して話を聞いたり、演技を見たりすることができる。
- ・話し手の問い掛けに応じて、表情、言葉、動作で応答することができる。

### 授業実践レベル

意欲を喚起するための工夫

- ・朝の会や給食時等に話題になりやすい時節的な話題と、児童生徒の食べ物等の話題を組み合わせる。

〈7月の講話「怒った冷蔵庫（寸劇）のあらすじ〉

夏が来た。いよいよ夏休みである。それに引き替え、冷蔵庫はいつも増して大忙し。そんな気持ちも知らず、家族は手荒に使う。とうとう冷蔵庫は冷やすのをやめてしまう。そうとは知らず、信ちゃんは傷んでしまったスイカをがぶり。お腹をこわして熱を出してしまう。頭を冷やす氷も溶け、お母さんはカンカン。冷蔵庫を捨てようとする。でも信ちゃんは冷蔵庫をかばう。冷蔵庫は自分のしたことを悔やみ、これからの頑張りを誓う。

場面1



場面2



場面3



電器屋でーす。冷蔵庫を持ってきました！

- ・講話導入時に、児童生徒の注目を引くように、あえて教師は登場せず、擬音だけを効果的に用いる。また、意外性をねらうため、電器屋が登場する。

それぞれの実践の想定する授業時間。  
「単元・題材実践」（緑のタグ）、「一単位時間の実践」（青のタグ）、「一単位時間の授業の部分の実践」（紫のタグ）

講話（15分）の実践

進んで活動に取り組むための工夫

- ・講話の内容を理解させやすいように、実物に似た立体的な教材を用いる。
- ・児童生徒の注目を引きやすいように、教材を擬人化させる。
- ・本講話で伝えたい価値（自分と与えられた役割を果たすことが充実感につながる）に触れやすくするために、職員が冷蔵庫に扮して冷蔵庫の気持ちを代弁する。
- ・登場人物と冷蔵庫の掛け合いをパターン化することで、聞いたり見たりすることへの見通しをもたせやすくするとともに、冷蔵庫の気持ちを察しやすくさせる。

〈擬人化した、立体的な教材〉



- ・冷蔵庫に扮した教師が、手荒に扱われるたびに「あいたたた」と感情を込めて、繰り返してしりふを言うことで、冷蔵庫の心情を理解させやすくし、その上で、質問を行う。教師（講話者）の質問：「冷蔵庫を強く開け閉めするのはどうでしょうか」児童生徒の反応：「だめー」「冷蔵庫がかわいそう」「壊れてしまう」

この劇の最後はこうにします。



- ・信ちゃんが傷んだスイカを食べてお腹を壊す。
- ・お母さんは、怒って捨てようとする。
- ・信ちゃんがかばい、冷蔵庫は頑張りを誓う。

### 授業評価・改善レベル

学習課題や授業の評価・改善の工夫

帰りの会などで、講話のどこが印象的であったか児童生徒の反応を確認します。

ポイント！

全校朝会の講話では、みんなで価値の共有をすることが大切です。今回の講話では、信ちゃんの「ごめんなさい」、冷蔵庫の「分かった、頑張る」という落ちで、児童生徒の心に入り込んでいくようにすることが重要です。年間を通してありがとう、ごめんなさいといった言葉に多く触れさせたいものです。

劇で教えてもらうと分かりやすいな。



実践後の子供の思い

指導・支援のポイント